



『手根管症候群について』

整形外科医師 三ツ口由紀子

手根管症候群とは

手根管とは手掌の手首付近にある骨と靭帯に囲まれたトンネルのことで、指を曲げる腱と正中神経が通っています。なんらかの原因でこのトンネルがせまくなり、神経を圧迫することがあります。正中神経が手根管内で圧迫を受けて母指球筋の萎縮や 1～4 指 (小指以外) のしびれをおこす状態のことを手根管症候群といいます。

原因

さまざまな原因で起こります。手の使いすぎやホルモンのバランス異常によって滑膜炎を起こしたり、リウマチ、透析 (アミロイドの沈着による) 痛風、ガングリオンなどの腫瘤、手根管付近の骨折などによる滑膜炎が原因となることもあります。糖尿病などの内分泌異常のある方にも起こりやすいようです。

症状

正中神経の支配している 1～4 指のしびれを感じたり、親指のつけねの筋肉 (母指球筋) がやせてきます。それによってビンのふたがあけにくくなったり、細かい作業がやりにくくなります。

治療

初期のもの、軽症のものに対しては手首の固定をおこなったり外用薬などでよくなることがあります。また、神経ブロックの注射 (局所麻酔薬とステロイドを手根管内にいれます) で症状がよくなることもあります。ただし、持病によってはブロックのできない場合があります。進行したものに対してはトンネルを広げる手術が必要です。母指球筋は完全にやせてしまうとともにもどれなくなってしまうので、そのようになる前に手術したほうがよいでしょう。当院では内視鏡による手術もおこなっており、傷が小さいので術後の痛みが少なくなります。

病状によっては内視鏡手術でない方がよい場合もありますので担当医師とご相談下さい。